

Title	前号目次 奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.8 (1920. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200801-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

としての經濟學「經濟價值の研究」「歴史の經濟的要素」「經濟的文化の發展」及び「經濟的文化の極致」の五篇より成れり。皆な朗々諦す可き名篇なり。

先づ本書の序文「眞を求めて」を讀める者は、恐らく著者が流麗暢達の筆に魅せられざるを得ざる可し。縱令ひ、讀み了りて著者が果して何物を與へたるかを疑ふ者なしとせざるに非ざるも、然も讀過しつゝある間は最も快適なる感をして第一篇に移るに及びて吾人は又た其の結構の雄大なるに驚かざるを得ず、又た何人も著者の哲學的知識の富贍なるを稱せざるを得ずと雖も、吾人を以て窮に思ふに第一章第一節以下の七節は野村氏自らが科學の本質を體得する上に意義ありしものにして、讀者は寧ろ第二章「經濟學の科學的地位」のみを以て満足する者に非

ざるなきか。而して吾人は著者が本章に於ける論述の比較的簡單なりしを遺憾とする者なり。第二第三及び第四の各篇は何れも最近本誌上に連載せられて、著者を我が經濟學界に紹介したる雄篇なり。本誌の讀者は吾人の贅言を俟つことなくして既に其の眞價を熟知せるなる可し。吾人未だ信不及にして、徒らに外に向つて馳求し、設令ひ求め得るも皆な是れ文字の勝相なる時、野村氏早く眞正の見解を求めて進まんとす。固より見眞の日は遠かる可きも、其の努力、困苦、精進は常に報ひられつゝあるなり。氏が若き日の追求を紀念する絶好の著書として此の一卷を同窓諸君に薦む。

(高橋誠一郎)

前號(第十七號)目次(大正九年七月號)

論 説

◎經營權分配制度を論す

堀江 歸一

◎遺產相續法と土地の分配(二)

瀧本 誠一

◎社會主義者の「歴史的法律的」

小泉 信三

◎資本觀概略

高橋誠一郎

◎「デヴィッド・ヒュームの

「資本平衡」論(一)

◎産業管理と勞働組合

高橋誠一郎

◎フォルアールベルグ問題

高橋誠一郎

◎九州に於ける炭坑ストライキの

高橋誠一郎

◎西紀三十三年の經濟恐慌

高橋誠一郎

◎マルクス派の國家觀

高橋誠一郎

◎小泉信三著社會問題研究

高橋誠一郎

◎本庄榮治郎著經濟史研究

高橋誠一郎

◎瀧本博士著經濟一家言

高橋誠一郎

◎理財學會記事

附 錄

發行所 東京堂書店

慶應義塾内

理財學會

三田 禁 轉 載 第 四 十 編 輯 者 江 田 範 保	●半 年 一 ヶ 年 分 金 四 圓 六 六 拾 五 錢	●編 輯 及 事 務 に 關 す る 一 切 の 用 件 は 發 行 所 宛
東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内	郵稅金壹圓五厘	
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地	郵 稅 共	
行	郵	
大正九年七月一日發行	大正九年八月一日發行	原稿締切期日は發行の前月十日限
東京市神田區表神保町三番地	東京市赤坂區新町五丁目四十二番地	
發賣元 東京堂書店	印刷所 東京堂書店	
神田電話三〇六一〇番	三〇六二〇番	
振替東京三〇六三番	三〇六四番	
三〇六五番	三〇六六番	
三〇六六番	三〇六七〇番	

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す